

2010/2011シーズン

BALLET バレエ

CONTEMPORARY
DANCE コンテンポラリーダンス



新国立劇場

2010年1月

Contents

舞踊芸術参与(次期舞踊芸術監督予定者) デヴィッド・ビントレー …	2
2010/2011 シーズン バレエ ラインアップ …	5
ビントレーのペンギン・カフェ 新制作 …	6
同時上演 バラシンのシンフォニー・イン・C フォーキンの火の鳥	
アシュトンのシンデレラ …	10
ラ・バヤデール(牧 阿佐美版) …	12
ビントレー監督が贈る ダイナミック ダンス! 新制作 …	14
ビントレーのアラジン …	16
マクミランのロメオとジュリエット …	17
平成22年度公演 …	19
平成22年度 新国立劇場 こどものためのバレエ劇場 しらゆき姫 …	20
平成22年度 新国立劇場 中学生のためのバレエ 牧 阿佐美の椿姫 …	22
平成22年度 新国立劇場 地域招聘公演 新潟シティバレエ 角兵衛獅子 …	23
2010/2011 シーズン コンテンポラリーダンス ラインアップ …	25
DANCE PLATFORM 2010 …	26
ストラヴィンスキー・イブニング …	28
井手茂太 イデビアン・クルー …	30
DANCE to the Future 2011 …	32
公演一覧(1997.10 ~ 2010.6) …	33

2010/2011 シーズン バレエ・コンテンポラリーダンス



舞踊芸術参与
(次期舞踊芸術監督予定者)
デヴィッド・ビントレー

新国立劇場の次期舞踊芸術監督予定者として、初シーズンについてご説明させていただくことを大変光栄に思っております。

本シーズンのオープニング公演は、時代を代表するバレエ作品のトリプル・ビルを上演します。1作品目は、ジョージ・バランシン振付の大変美しい『シンフォニー・イン・C』。本作品の音楽はジョルジュ・ビゼーで彼が十代の頃作曲した傑作といわれています。2作品目は振付家ミハイル・フォーキンと作曲家イーゴリ・ストラヴィンスキーが生み出した偉大な作品『火の鳥』です。本作品は、世界初演から本年度で100年という記念すべき年を迎えます。トリプル・ビルの最終演目は、私自身の振付作品で1988年に英国ロイヤルバレエにより初演された『ペンギン・カフェ』です。私は舞踊芸術監督就任にあたり、その嚆矢としてオペラパレスで、トリプル・ビルを組みたいと強く願っておりました。それは、厳選された小作品群に彩られた一夜が、いかに有意義で楽しいものとなり得るか、日本の観客の皆様にお見せしたかったからです。更に、トリプル・ビルを上演するにあたり、新国立劇場バレエ団のダンサーにとっても、より多くの役、パートを演じる好機が与えられれば、今まで未知であった多くの才能や個性が開花する可能性があり、この経験がダンサーを成長させてくれることと信じています。また、本プログラムは、オーケストラの手腕が大いに発揮される高いレベルの演奏を披露できる素晴らしい機会になると思います。

11月～12月には、クリスマスギフトとして、『シンデレラ』を上演します。舞踊芸術監督としての初シーズン演目構成に英国作品が多いと思われる方もいらっしゃると思いますが、新国立劇場は以前から多くの英国作品レパートリーを持っており、ロンドンの観客のみならず、日本の観客の皆様がクリスマス恒例の作品として、フレデリック・アシュトン卿振付の『シンデレラ』を愛して下さっているのは嬉しい限りです。

新国立劇場のレパートリーには、牧阿佐美現舞踊芸術監督の大変なご努力とご貢献があると思います。古典バレエの宝庫とも言うべき作品の数々は、新国立劇場が引き継がなくてはならないものだと思っています。特に壮大で秀逸な作品である『ラ・バヤデル』は世界のどのプロダクションにもないものです。来年1月に予定しています再演時には、牧監督に新国立劇場バレエ団に戻っていただき、牧監督からダンサー達に直接ご指導いただけることとなります。

本シーズン最も楽しみにしている公演企画の1つが、年に1度上演する中劇場公演です。中劇場は、フルサイズのオーケストラピットを完備した大きな劇場ですが、オペラパレスと比較してみますと、観客席と舞台が近距離にあり、親近感の持てる劇場構造になっております。そのため、中劇場には若干小規模の本シーズン第2作目となるミックス・プログラムを予定しております。1作品目は、ジョージ・バランシン振付のネオクラシック作品『コンチェルト・バロッコ』、そして私の振付作品『テイク・ファイヴ』で、この作品ではジャズ・カルテットのライブ演奏が織りなす音楽に浸っていただけたと思います。音楽は、世界的に有名なジャズ界の巨匠、デイヴ・ブルーベックに捧げる作品として、彼のアルバムの曲を使用しています。3作品目はトワイラ・サープの最高傑作とも言われる『イン・ジ・アッパー・ルーム』。本作品の上演時には、必ず客席から大歓声が沸き上がり、拍手喝采となる作品ですので、日本の皆様にも満足していただけると確信しております。

さて、私の振付家人生の中で、大変印象に残っている貴重な経験の1つが、新国立劇場バレエ団のために振り付けした『アラジン』です。本作品は私の人生において、これからも宝物であり続ける作品だと思っています。バレエダンサーと共に仕事をすることで、彼等が与えられた役を通して試行錯誤し成長していく姿、またカンパニーが一体となって作品を創り上げていく過程は、本当に実りある楽しい日々でした。2008/2009シーズンに世界初演した本作品を多少改訂して、来年5月に再演させていただくことを楽しみにしております。

また、本シーズンの最後を飾る作品は、ケネス・マクミラン卿振付、セルゲイ・プロコフィエフ音楽による『ロメオとジュリエット』の再演です。この作品は、1965年に英国ロイヤルバレエのマーゴ・フォンテーントとルドルフ・ヌレエフという偉大なダンサーが初演し、その後バーミンガム・ロイヤルバレエでは1993年に、新国立劇場では2001年に初演している作品です。

新国立劇場の舞踊芸術監督としての責務は、コンテンポラリーダンスの監督も兼務することだと考えています。コンテンポラリーの振付家やダンサーたちとコミュニケーションを図る中で、現在発展段階にあるコンテンポラリーダンスの重要性を認識する大変良い機会と思い、楽しみにしています。ご存知の通り、私はバレエの世界でキャリアを積んできておりますが、今日のダンス界において、コンテンポラリーダンスは重要な役割をしており、大きな影響を与えていると思います。そういった意味では、バレエはコンテンポラリーダンスと共にあって、現代の傾向を柔軟に吸収していく必要があると思っております。

本シーズンに私が選び、新国立劇場バレエ団が踊る作品が、劇場へ足を運んで下さる観客の皆様や劇場に携わる全ての方に感動を与え、ご満足いただけます様に全力を尽くして参りますので、宜しくお願い致します。

〈プロフィール〉

英国ハダースフィールド生まれ。英国ロイヤルバレエ学校に入ったが、当時英国ロイヤルバレエでは、マーゴ・フォンティン、ルドルフ・ヌレフ、アンソニー・ダウエルなど世界的なダンサーが活躍していた黄金時代であり、フレデリック・アシュトンやケネス・マクミランが最高傑作を生み出す同時代に居合わせていた。1976年サドラーズ・ウェルズ・バレエ(現バーミンガム・ロイヤルバレエ)に入団し、瞬く間に秀逸なキャラクター・ダンサーとしての頭角を現した。アシュトン振付の『ラ・フィユ・マル・ガルデ』のアランやシモーヌ、『真夏の夜の夢』のボトム、『シンデレラ』の意地悪な姉などを演じている。15歳で、最初の振付作品『兵士の物語』(ストラヴィンスキー作曲)を創る。入団後2年も経ずにピーター・ライトに振付家としての才能を見出され、プロとしてサドラーズ・ウェルズ・バレエのために『アウトサイダー』を振り付けた。この作品には既に人物への鋭い洞察、知的で刺激的な音楽の選択などビントレーの資質が現れていたが、ここではジョージ・バランシンなどのアメリカの影響とアシュトン、チューダー、マクミランなどのイギリスの伝統的系譜がともに見て取れる。82年に3ヶ月間アメリカとドイツのダンスシーンを視察、この経験は間違いなくビントレーのイメージを拡げ、ビントレーが持っていたイギリス的アプローチの本質に確信を与えることになった。86年から93年の間、サドラーズ・ウェルズ・バレエや英国ロイヤルバレエの振付家として活躍。93年にフリーランスになった時には世界中の7カンパニーから新制作依頼が殺到した。ピーター・ライトを引き継いで95年からバーミンガム・ロイヤルバレエ芸術監督。2008年9月から新国立芸術舞踊芸術参与。2010年から新国立劇場舞踊芸術監督に就任予定。両劇場の兼務となる。ビントレーの見事な振付はアシュトンやマクミランの継承者にふさわしいものである。05年新国立劇場で『カルミナ・ブラーナ』、07年に『アラジン』が上演され高い評価を得た。

■芸術監督任期(予定):平成22(2010)年9月1日~平成25(2013)年8月31日

BALLET

2010/2011 シーズン バレエラインアップ

〈新制作 2 演目 / レパートリー 4 演目 計 6 演目 35 公演〉

2010.10-11

ビントレーのペンギン・カフェ **新制作**

同時上演

バランシンのシンフォニー・イン・C

フォーキンの火の鳥

6 回公演

2010.11-12

アシュトンのシンデレラ

6 回公演

2011.1

ラ・バヤデール (牧 阿佐美版)

5 回公演

2011.3

ビントレー監督が贈る ダイナミック ダンス! **新制作**

5 回公演

バランシンのコンチェルト・バロッコ

ビントレーのテイク・ファイヴ

サープのイン・ジ・アッパー・ルーム

2011.5

ビントレーのアラジン

7 回公演

2011.6-7

マクミランのロメオとジュリエット

6 回公演

2010.10/27 ~ 11/3

ビントレーのペンギン・カフェ

同時上演

バランシンのシンフォニー・イン・C フォーキンの火の鳥

オペラパレス | 6回公演

レパートリー
Repertory

シンフォニー・イン・C Symphony in C

振付: G. バランシン 音楽: G. ビゼー 演出: C. ニアリー
Choreography: G. Balanchine Music: G. Bizet Staging: C. Neary

新制作
New production

火の鳥 ~上演100周年記念~ The Firebird

振付: M. フォーキン 音楽: I. ストラヴィンスキー 装置: D. バード 衣裳: N. ゴンチャローヴァ
Choreography: M. Fokine Music: I. Stravinsky Scenery: D. Bird Costume: N. Goncharova

新制作
New production

ペンギン・カフェ 'Still Life' at The Penguin Café

振付: D. ビントレー 音楽: S. ジェフェス 装置・衣裳: H. グリフィン オリジナル照明: J. B. リード
Choreography: D. Bintley Music: S. Jeffes Design: H. Griffin Original Lighting: J. B. Read

指揮: P. マーフィー
Conductor: P. Murphy

管弦楽: 東京フィルハーモニー交響楽団
Orchestra: Tokyo Philharmonic Orchestra

デヴィッド・ビントレー芸術監督就任オープニング公演は 豪華3本立て

デヴィッド・ビントレーが芸術監督に就任するシーズンの記念すべきオープニング公演は、時代を越えて感動を生み続ける20世紀の傑作バレエを斬新にセレクトした珠玉の作品が布陣されています。

まずバランシンの『シンフォニー・イン・C』、次に初演から100年目を迎えるフォーキンの『火の鳥』、そしてビントレーの『ペンギン・カフェ』の豪華3本立て。

いずれもバレエ史上に名を残す舞台上、芸術監督就任のオープニング演目はぜひ3作品を一挙に上演して、各作品の音楽が持つ素晴らしさや新国立劇場バレエ団のダンサーたちが持つ多様多彩な魅力を、楽しんでいただきたいという意図で組まれた公演です。

『シンフォニー・イン・C』について

バレシンの作品は“音楽の視覚化”と形容されるが、まさに当作品は目で見える音楽そのものである。当作品はバレシンのバレエの中でもたいへん難易度の高いバレエで、初演は1947年パリ・オペラ座、バレシンがパリ・オペラ座に招かれて振り付けた作品である。

音楽はパリにちなんで、フランス人作曲家ビゼーが17歳の時に書いた交響曲を使っており、全部で四楽章からなる。楽章ごとに男女プリンシパルとソリスト、コール・ド・バレエが登場し、華麗に優雅にそれぞれ異なった雰囲気を描く。複雑でスリルに満ちたパ・ド・ドゥやポワントワーク、思う存分振り動かされる四肢。刻々と隊列を変えながら縦横無尽に舞台を駆け回るコール・ド・バレエ。その全てがバレシン独特の素早さで繰り広げられ、舞台はめくるめく躍動感に包まれていく。最終楽章で全キャストが一堂に会し、まさに絢爛豪華なフィナーレとなる。新国立劇場バレエ団のクオリティの高さを存分にご堪能いただける作品である。



『火の鳥』について

初演は1910年6月。新国立劇場で上演される2010年は初演より100年の記念すべき年となる。ロシアの民話に基づく1幕2場のバレエで、当作品はバレエ・リュスの第2回パリ公演の中心的作品。1913年に初演された『春の祭典』と並んで、同バレエ団の代表作となる。

ディアギレフがこの作品の音楽を若手作曲家のストラヴィンスキーに依頼、世界はもとよりロシアでも無名だった彼はこの作品で世界デビューを果たした。この作品が持つ濃厚なオリエンタリズムやエロティシズムが当時のパリの観客を魅了した。



photo by Bill Cooper

『ペンギン・カフェ』について

1988年3月に英国ロイヤルバレエで初演。今や英国でロングセラーとなっている作品だが、初演当時、作品が持つメッセージ性故に通常の新作バレエに対する評価とは違った意味でも話題になったという。絶滅寸前の動物たちを主人公とするこの作品は、単に環境保護を提唱するものではないようだ。動物たちの踊りは時に衰退や絶滅に瀕した哀しみをたたえるが、一方でユーモラスで愉快でもある。堅苦しくなりがちなこのテーマを観客たちにごく自然に受け入れさせるこの見事な手法はビントレー独特の世界観によるところが大きい。



ジョージ・バランシン (1904～1983)

George Balanchine

1904年、サンクトペテルブルグ生まれ。帝室バレエ学校に学ぶ。24年バレエ・リュスに入団し29年に同バレエ団が解散するまで『アポロ』『放蕩息子』など10作品を振り付けた。33年に渡米、リンカン・カーズティンらとニューヨークでスクール・オブ・アメリカン・バレエを開校する。48年に発足したニューヨーク・シティ・バレエを終生の活動拠点とし、アブストラクト・バレエを主体とするスピード感溢れる清新なスタイルを確立した。アメリカを代表する振付家であるだけでなく20世紀の最も重要な振付家の一人。83年ニューヨークにて死去。



ジョルジュ・ビゼー (1838～1875)

Georges Bizet

1838年、パリ生まれ。9歳でパリ音楽院に入学し、フランソワ・マルモンテル、シャルル・グノー、ジャック・アレヴィらに師事してピアノ、ソルフェージュ、オルガン、フーガで一等賞を獲得した。17歳で『シンフォニー・イン・C』を作曲、19歳でカンタータ『クローヴィスとクロティルデ』でローマ大賞を獲得。歌劇などの劇音楽を作曲の中心とし、25歳のときの歌劇『真珠採り』でオペラ作曲家の地位を確立する。その後フランス人の作家アルフォンス・ドーデの劇『アルルの女』の付随音楽や、歌劇『カルメン』などを作曲。

ミハイル・フォーキン (1880～1942)

Mikhail Fokin

1880年、サンクトペテルブルグ生まれ。帝室バレエ学校に学び、卒業後はマリインスキー劇場バレエのソリストとして活躍。ロシアを訪れたイサドラ・ダンカンの踊りに大きな衝撃を受け、振付表現の統一された、心理的な意味づけのある「新しいバレエ」を提唱した。『シェヘラザード』『薔薇の精』『レ・シルフィード』『ペトルーシュカ』などバレエ・リュスの初期の作品のほとんどを振付けた。1918年以降はロシアを出てフリーの振付家として活動し、各国に招かれてバレエ・リュスのレパートリーを広めた。42年ニューヨークにて死去。





イーゴリ・ストラヴィンスキー (1882～1971)

Igor Stravinsky

1882年ロシア・ロモノソフ生まれ。作曲家。指揮者、ピアニストとしても活動。20世紀を代表する作曲家の1人として知られ、20世紀の芸術に広く影響を及ぼした音楽家の1人である。生涯に作風を次々に変え続けたことで知られ、創作の分野は多岐にわたった。さまざまな分野で多くの名曲を残しているが、その中でも初期に作曲された3つのバレエ音楽『火の鳥』『ペトルーシュカ』『春の祭典』が名高く、特に原始主義時代の代表作『春の祭典』は、音楽史上の最高傑作の1つにも数えられている。2010年は世界デビューとなった『火の鳥』が作曲されて100年になる。

デヴィッド・ Bintレー

David Bintley CBE

※P3参照

S.ジェフェスとペンギン・カフェ・オーケストラ

4人から数十人で構成され、主要メンバーとして活躍していたS.ジェフェスが、幼少の頃よりカナダやヨーロッパ各地を転々とした経験や知識、そして音楽に対する情熱を最大限に活かし、クラシック音楽、ミニマル音楽、民族音楽、現代音楽などの要素を取り入れた多様なジャンルをクロスオーバーした音楽となっている。Bintレーがこの『ペンギン・カフェ・オーケストラ』から、インスピレーションを得てそれぞれの絶滅寸前の動物とそのイメージに合った曲を選びS.ジェフェスがオーケストラ用にアレンジし、この約40分のバレエ『ペンギン・カフェ』が誕生した。

アシュトンの シンデレラ

2010.11/27 ~ 12/5

レパートリー
Repertory

Ashton's Cinderella

オペラバレス | 6回公演

振付: F. アシュトン

Choreography: F. Ashton

作曲: S. プロコフィエフ

Music: S. Prokofiev

監修・演出: W. E. サムス

Staged by W. E. Soms

舞台美術・衣裳: D. ウォーカー

Designs: D. Walker

照明: 沢田祐二

Lighting: Y. Sawada

指揮: D. ガルフォース

Conductor: D. Garforth

管弦楽: 東京フィルハーモニー交響楽団

Orchestra: Tokyo Philharmonic Orchestra



ウィンターシーズンは新国立劇場で バレエ『シンデレラ』を家族へプレゼント

英国人ビントレー次期舞踊芸術監督のウィンターシーズンにふさわしく、20世紀英国が生んだ名振付家アシュトンの『シンデレラ』を上演します。新国立劇場では、ウィンターシーズン恒例の公演として『くるみ割り人形』と『シンデレラ』をレパートリー化していますが、この『シンデレラ』は、愛とユーモア、ペーススがたっぷりの舞台で、日本では新国立劇場バレエ団だけが上演する傑作バレエです。1999年の新国立劇場初演以来、今回で7回目の再演となる人気演目で、家族そろって楽しく過ごすバレエプレゼントとして大変好評を得ています。

ものがたり

意地悪な義理の姉二人は、王子から招かれた舞踏会に行く準備に余念がありません。シンデレラをかばう父親もはねのけて、彼女を召使いのようにこき使います。今は亡き母を慕って悲しむシンデレラの前に仙女が現れて、魔法の一振りでカボチャは立派な馬車に、シンデレラのみすぼらしい服は輝くばかりのドレスに変わります。



フレデリック・アシュトン(1904～1988)

Sir Frederick Ashton

「バレエのシェイクスピア」と称された叙情性とユーモアに溢れた作風を持つ。20世紀の真の巨匠ともいべきロイヤルバレエの振付家で、名キャラクター・ダンサーでもあった。1904年南米エクアドル生まれの英国人で少年時代にアンナ・パヴロワの舞台を観てバレエを志す。英国に戻って学業を終えた後、レオニード・マシーンに入門。さらにマリー・ランベール他著名な教師に師事して、種々の舞台に立つ。その一方で、26年には振付家処女作『ファッションの悲劇』を発表する。28年にはパリのイダ・ルビンスタインの舞踊団にダンサーとして参加し、プロニスラヴァ・ニジンスカの作風から大きな影響を受ける。翌29年ロンドンに戻り、本格的な創作活動を開始。35年に英国ロイヤルバレエの前身ヴィック・ウェルズ・バレエにダンサー兼振付家として招かれる。同時期に入団しやがて英国最高のバレリーナに成長するマーゴ・フォンテインに多くの新作を振り付け、バレエ団発展の原動力となるとともに、英国バレエ独自の気風を確立した。63年には設立者ニネット・ド・ヴァロワの後を継いで芸術監督に就任。70年の退任後も80年代半ばまで創作を続け、88年に英国サセックスにて永眠。代表作に初の全幕バレエ『シンデレラ』、マーゴ・フォンテインのための『オンディヌ』、一幕の物語作品『真夏の夜の夢』『田園の出来事』、抽象バレエの『シンフォニック・ヴァリエーションズ』『ラ・ヴァルス』、映画ではハリネズミを自演した『ピーター・ラビットと仲間たち』などがある。



セルゲイ・プロコフィエフ(1891～1953)

Sergey Prokofiev

ウクライナ生まれ。ペテルブルグ音楽院で作曲とピアノ、指揮科を専攻。リャードフ、リムスキー＝コルサコフらに学び、1914年にロンドンを訪れ、ストラヴィンスキー、ラヴェルの作品に接する。バレエ・リュスを率いるディアギレフにすすめられ、ロシア的な題材のバレエ音楽を書き始める。後期バレエ・リュスと深く関わり『鋼鉄の歩み』とバレエ・リュス最後の新作『放蕩息子』を作曲した。ロシア革命後アメリカ滞在を経て34年には祖国に移住。共産党政権下の厳しい状況の中で精力的に活動を続け、作曲家として高い地位を築く。20世紀物語バレエの最高傑作のひとつとなった『ロメオとジュリエット』、ボリショイ劇場バレエのための『シンデレラ』、『石の花』と名作を次々と発表した。

ラ・バヤデール

(牧 阿佐美版)

2011.1/15 ~ 23

レパートリー
Repertory

La Bayadère

オペラパレス | 5回公演

振付: M. プティパ

演出・改訂振付: 牧 阿佐美

作曲: L. ミンクス

編曲: J. ランチベリー

舞台美術・衣裳: A. リヴィングストン

照明: A. リヴィングストン / 磯野 睦

指揮: 未定

管弦楽: 東京交響楽団

Choreography: M. Petipa

Revised by Maki Asami

Music: L. Minkus

Arranged by J. Lanchbery

Designs: A. Livingston

Lighting: A. Livingston / M. Isono

Conductor: TBA

Orchestra: Tokyo Symphony Orchestra



ビントレー次期芸術監督が世界中で最も完成度が高い 『ラ・バヤデール』と絶賛する牧阿佐美版

2000年11月に牧阿佐美舞踊芸術監督の改訂振付第1作として新制作された『ラ・バヤデール』は、古典バレエの様式美を存分に堪能できる演出、スピード感あふれるスペクタクルな舞台展開、豪華でオリエンタルな深い色彩の舞台美術によって、既成の版にはない斬新さを示して大成功をおさめました。各国でバレエを見てきたビントレー次期芸術監督が世界中で最も完成度が高い『ラ・バヤデール』と絶賛、今回の3度目の再演が決定しました。

当プロダクションの特徴は随所にあります。例えば、夢の場の精霊の踊りは、3段の九十九折スロープをゆっくりと舞い降りる精霊たちの姿が圧巻。また、物語の最後では寺院が轟音とともに崩壊し、その廃墟の中をニキヤとソロルが共に天に昇って行くシーンも息を呑むように美しい。なお、この終幕場面の音楽は、バレエ界の名指揮者・名編曲者で知られた故ランチベリーが、特に新国立劇場版のために編曲しています。

登場人物が織り成すドラマも『白鳥の湖』や『眠れる森の美女』といった古典作品にない魅力があります。寺院に仕える舞姫ニキヤは清楚で内に秘めた強さを持っています。恋人で王に仕える騎士ソロル、ソロルを慕う王の娘ガムザッティのニキヤとの確執、ニキヤを憎からず思う大僧正など、そうした複雑な人間ドラマを演ずるそれぞれのキャストを楽しみに公演に足を運ぶ観客も多い作品です。



ものがたり

インドの寺院に仕える舞姫ニキヤはラジャー（王侯）に仕える若い隊長ソロルと恋仲である。ニキヤに思いを寄せる大僧正はニキヤを手に入れようと機会をうかがっている。一方、ソロルが仕える王の娘ガムザッティはソロルとの結婚を望み、王の命にそむくことが出来ないソロルは心ならずも結婚を承諾してしまう。絶望するニキヤは毒蛇にかまれ、解毒剤を差し出す大僧正の手を振り払って絶命する。後悔の想いの中で夢を見たソロルは夢の中でニキヤと再会して至福のときを過ごす。だが、彼が夢から覚めたとき、愛の力か、はたまた神の怒りか、寺院が轟音のなかで崩壊していく……。

マリウス・プティパ(1818～1910)

Marius Petipa

1818年フランス・マルセイユ生まれ。舞踊家、舞踊教師、振付家。13歳のときに父の作品で舞台デビューを果たし、47年にサンクトペテルブルグの帝室ポリショイ劇場に招かれた。55年からは父の後任として、劇場附属バレエ学校で、踊りと得意としていたマイムの教師を兼任している。62年に振り付けた『ファラオの娘』が大成功し、副バレエマスターに就任。69年にはサン＝レオンが退任したため、首席バレエマスターとなる。以後『ドン・キホーテ』（1869）、『ラ・バヤデール』（1877）、『眠れる森の美女』（1890）、『白鳥の湖』（1895、イワーノフと共作）、『ライモンダ』（1898）など、数々の傑作を残しロシア・バレエの伝統を確立した。1903年初演の『魔法の鏡』まで、改訂振付を加えれば70以上の作品をロシアで振り付けている。10年、クリミア地方グルズフで亡くなった。



牧 阿佐美

Maki Asami

日本バレエ界の草分けの一人、橋秋子の長女として生まれる。4歳で初舞台を踏み、20歳の時に米国に留学、A.ダニロフ、I.シュヴェッツォフに師事。その後、橋バレエ団を基礎に、橋秋子と共に牧阿佐美バレエ団を設立し、プリマ・バレリーナとして数々の作品に主演。昭和35年には、日本で初めて外国人ダンサーを相手役に全幕バレエ『コッペリア』を踊り、絶賛を浴びる。橋秋子の没後はその遺志を継いで舞台を退き、牧阿佐美バレエ団主宰者、橋バレエ学校校長となり、その卓抜した指導力で、日本を代表する舞踊手を数多く世に送り出す。また振付家としても活躍する一方、海外より多数の著名な指導者や振付家を招き、国際共同による質の高い舞台制作を手がけている。ニムラ賞、芸術選奨文部大臣賞、東京新聞舞踊芸術賞、舞踊批評家協会賞、橋秋子賞特別賞を受賞。平成8年（1996年）秋には、多年にわたり数多くの作品を振り付け、発表し続けた功績により紫綬褒章を受章。2004年2月フランス政府から芸術文化勲章シュヴァリエを受ける。08年5月には日本人として初めてブノワ賞の審査にあたった。08年に平成20年度の文化功労者に選ばれた。振付家としての主な経歴は、1965年『火の鳥』、67年『眠れる森の美女』をイゴール・シュヴェッツォフと共同振付して主役を踊り、衣裳デザインも自ら手がけて上演した。68年には振付家として本格的にデビューし、黛敏郎作曲『ブガク』、芥川也寸志作曲『トゥリプティーク』、團伊玖磨作曲の『シルクロード』を振付して注目された。最近では95年に『ロメオとジュリエット』、98年に『椿姫』をアザーリ・プリセツキーと共同振付して絶賛を浴びた。新国立劇場バレエ団への全幕物の演出・改訂振付第1作目として2000年11月に『ラ・バヤデール』を手掛け好評を博した。第2作目は04年10月に『ライモンダ』全幕改訂振付、この作品で朝日舞台芸術賞を受賞した。第3作目に06年11月に『白鳥の湖』を改訂振付・演出し、高い評価を得た。07年には新国立劇場完全オリジナルの『椿姫』の振付・演出にあたり、第7回朝日舞台芸術賞を受賞。

1999年から2010年まで新国立劇場舞踊芸術監督を務め、ワシントン・ケネディーセンター公演（「ジャパン・フェスティバル」参加）とモスクワ・ポリショイ劇場公演「椿姫」の海外公演を大成功に導くなどバレエ団の育成と発展に大きく寄与した。

ビントレー監督が贈る ダイナミック ダンス!

2011.3/19 ~ 27

新制作
Nêw production

Bintley's Choice

中劇場 | 5回公演

バランシンのコンチェルト・バロッコ Concerto Barocco

振付: G. バランシン 音楽: J. S. バッハ
Choreography: G. Balanchine Music: J. S. Bach

ビントレーのテイク・ファイヴ Take Five

振付: D. ビントレー 音楽: D. ブルーベック / P. デズモンド
Choreography: D. Bintley Music: D. Brubeck / P. Desmond

装置・衣裳: J. プイサント 照明: P. マンフォード
Design: J. Puissant Lighting: P. Mumford



photo by Andrew Ross

サープのイン・ジ・アッパー・ルーム In the Upper Room

振付: T. サープ 音楽: P. グラス 衣裳: N. カマリ 照明: J. ティプトン
Choreography: T. Tharp Music: P. Glass Costume: N. Kamali Lighting: J. Tipton

※特殊録音による音源使用



photo by Bill Cooper

中劇場でのミックス・プログラムは
全て新制作、必見の3作品
躍動感にあふれたエネルギッシュな作品が次々登場

若き振付家時代にアメリカを訪れたビントレー次期芸術監督が贈るプログラムは、「これぞアメリカの楽しさ」と選りすぐりの傑作が揃います。

3作品すべてが新国立劇場初登場となる中劇場でのミックス・プログラムはバランシンの名品『コンチェルト・バロッコ』で幕を開けます。この作品はバッハの「2つのヴァイオリンのための協奏曲ニ短調」に振り付けた1941年の作品。続いてジャズ・カルテットの軽快な音楽にビントレーの振付が冴える『テイク・ファイヴ』(1978年)が続きます。ラストは、世界中で拍手喝采の渦をまきおこすサープの『イン・ジ・アッパー・ルーム』(1986年)。目まぐるしい展開と迫力で見るものを魅了します。



photo by Bill Cooper

トワイラ・サーブ

Twyla Tharp

1942年アメリカ・インディアナ州生まれ。ニューヨークを拠点に活躍する振付家、ダンサー。プロ・ミュージシャンの母親の影響で、音楽、ダンス、バレエを学ぶ。マーサ・グラハムやマース・カニングハムらに師事。63年ポール・テイラー・ダンス・カンパニーに入団するが、65年に振付家としてデビュー、自身のダンスカンパニーも結成する。76年にはアメリカン・バレエ・シアターに『ブッシュ・カムズ・トゥ・ショヴ』を振り付け、当時全盛期を迎えていたバリシニコフが超人的なテクニックとユーモア・センスを存分に見せバリシニコフの当たり役となり同時にサーブの名声を高めた。70年代後半からは商業映画やブロード・ウェイ・ミュージカルにも進出しさらに活動領域を広げた。84年にはニューヨーク・シティ・バレエでジェローム・ロビンズと共同振付の『ブラームス／ヘンデル』を発表。88年からはアメリカン・バレエ・シアターで多くの作品を振り付け、その間バリ・オペラ座バレエや英国ロイヤルバレエ、ニューヨーク・シティ・バレエ、ジョフリー・バレエなど国内外の一流バレエ団にも作品を提供。緻密な構成と娯楽性に富んだ作品でサーブのカンパニーは人気を高め、テレビ界へも進出する。2003年度にはビリー・ジョエルの曲を満載し大ヒットしたブロード・ウェイ・ミュージカル『ムーヴィン・アウト』の振付でトニー賞を獲得する。これまでにサーブは125以上の作品を振り付け、5つのハリウッド映画の振付・監督、さらに2つのブロードウェイショーの振付、2つの著作、トニー賞を1回、エミー賞を2回受賞。17の名誉博士号を持ち、アメリカ芸術科学アカデミーのメンバーであり、アメリカ芸術文学アカデミーの名誉会員でもある。07年にはデューク大学とプリンストン大学の名誉教授となった。新国立劇場では09年サーブ振付『ブッシュ・カムズ・トゥ・ショヴ』を上演している。



デイヴ・ブルーベック

Dave Brubeck

1920年アメリカ出身のピアニスト。ウェストコースト・ジャズの代表的なピアニストとして知られる。母親から受けたクラシックの素養と即興のテクニックが特徴。彼の作品は4分の5拍など、ユニークな拍子を持ったものが多い。長年のパートナーにアルト・サックス奏者のポール・デズモンドがおり、彼作曲の"Take Five"が代表曲となる。

フィリップ・グラス

Philip Glass

1937年アメリカ・ボルチモア生まれ。ピーボディ音楽院を経てジュリアード音楽院に進む。卒業後、フランスでナディア・ブーランジェに師事。ラヴィ・シャンカールとともに仕事をし、その後ミローやコーブランド風の構成を離れ、附加的なリズムとサミュエル・ベケットの影響を受けた時間構成に基づく簡素で禁欲的な作品を書きはじめる。伝統的な演奏家と演奏会場に共感を見いださなくなったグラスは、フィリップ・グラス・アンサンブルを結成し、主に画廊で演奏活動を行うようになった。こうした画廊はミニマル・ミュージックと美術運動であるミニマル・アートが実際に会おう唯一の場所であった。グラスの作品は禁欲性を離れ、だんだんに複雑さを帯びるようになっていった。そしてグラス自身の見解ではまったくミニマル・ミュージックとはいえないものになっていった。こうした傾向は「12部からなる音楽」Music in Twelve Partsで頂点に達した。グラスは、三部作のオペラの第1作である『浜辺のアインシュタイン』をロバート・ウィルソン（演出家）とともに制作した。三部作はマハトマ・ガンジーの前半生とその南アフリカでの経験を描く『サチャグラハ』（Satyagraha）、アッカド語、旧約聖書のヘブライ語、古代エジプト語および聴衆の言語による力強い歌唱とオーケストラが競演する『アクナーテン』（Ikhnaten）へと続いていく。



ビントレーの アラジン

2011.5/2 ~ 8

レパートリー
Repertory

Bintley's Aladdin

オペラバレエ | 7回公演

演出・振付: D. ビントレー

Choreography : D. Bintley

作 曲: C. デイヴィス

Music : C. Davis

舞台装置: D. バード

Scenery : D. Bird

衣 裳: S. ブレイン

Costumes : S. Blane

照 明: M. ジョナサン

Lighting : M. Jonathan

指 揮: P. マーフィー

Conductor : P. Murphy

管弦楽: 東京フィルハーモニー交響楽団

Orchestra : Tokyo Philharmonic Orchestra

新国立劇場で生まれた 夢と冒険のファンタジーバレエ

2008年にビントレー舞踊芸術参与が新国立劇場のために振り付けた傑作『アラジン』が再演されます。

演出・振付の妙味に加えて、カール・デイヴィスの親しみやすい音楽、空飛ぶじゅうたんやランプの精の登場シーンなど夢いっぱいの演出も大好評で再演の要望が高かった作品です。初演に若干手を入れた形で上演されます。

大人から子供まで全ての世代の方々にご覧いただける公演であるばかりでなく、バレエが初めての方にも、よくバレエをご存知のお客様にもお楽しみいただけるエンターテインメント性と芸術性が見事に調和した稀有な作品です。

ものがたり

母親と暮らすアラジンは、仕事もせずにぶらぶらしている怠け者の少年だった。ある日、アラジンが不思議なランプを手にしたところから物語が始まる。そして、ランプの精と一緒にモロッコの姫を助け出す冒険の旅に出たアラジンは、困難を乗り越えながら大きく成長していく……。



マクミランの ロメオとジュリエット

2011.6/25 ~ 7/3

レパートリー
Repertory

MacMillan's Romeo and Juliet

オペラパレス | 6回公演

振付: K. マクミラン	Choreography : K. MacMillan
音楽: S. プロコフィエフ	Music : S. Prokofiev
監修: D. マクミラン	Final Supervision : D. MacMillan
舞台美術・衣裳: P. アンドリュース	Designs : P. Andrews
照明: 沢田祐二	Lighting : Y. Sawada
指揮: 未定	Conductor : TBA
管弦楽: 東京フィルハーモニー交響楽団	Orchestra : Tokyo Philharmonic Orchestra

04年の再演から7年を経て 英国人振付家マクミランの傑作バレエが待望の再演

シェイクスピアの悲劇『ロメオとジュリエット』は、誕生から400年あまりを経た今も、人々の心を惹き付けてやまない永遠のラブストーリーです。1965年マーゴ・フォンテーンとルドルフ・ヌレエフによって英国ロイヤルバレエで世界初演されたマクミラン版のドラマチックな舞台は、観る者すべてを虜にする魅力にあふれています。新国立劇場バレエ団ではこのケネス・マクミラン版で2001年10月にレパートリー化。プロコフィエフの音楽と緊密な関係をもって展開されるこのバレエは、マクミランの最高傑作とされています。2004年に再演されてから7年を経ての上演となります。

ものがたり

舞台は北イタリアのヴェローナ、モンタギュー家とキャピュレット家は互いに反目し、抗争を繰り返していた。そんな争いの最中に、モンタギュー家のロメオはキャピュレット家の仮面舞踏会に潜り込み、一人娘のジュリエットに出会う。たちまち恋に落ちた二人は翌日ロレンス神父のもとで密かに結婚式を挙げる。しかし、その直後にロメオの親友マキューシオが、キャピュレット家のティボルトに殺されたため、ロメオはティボルトを殺し復讐を果たす。初夜を過ごした後、ヴェローナからの追放を言い渡されているロメオは旅立つ。残されたジュリエットには、両親が決めた婚約者パリスとの結婚が迫っていた。相談を受けたロレンス神父は一計を案じて、ジュリエットに一時的に仮死状態となる薬を与える。しかし、手違いでその計略がロメオに伝わらず、墓所に眠る恋人のもとへ駆けつけた彼は、絶望し毒を飲んで死ぬ。眠りから覚めたジュリエットはロメオの遺体を発見し、ロメオの短剣で胸を刺し、後を追う。



ケネス・マクミラン(1929～1992)

Sir Kenneth MacMillan

1929年スコットランド生まれ。サドラーズウエルズ(現ロイヤル)バレエ学校で学び、46年にはサドラーズウエルズ・シアター・バレエの創立メンバーとなる。その後コヴェント・ガーデン(ロイヤルバレエ)に移籍、優秀なクラシック・ダンサーとしてだけでなく、面白く共感を呼ぶマイムも得意とした。52年にサドラーズウエルズに戻り、若手ダンサーたちの自主公演で処女作『ソナンビュリズム』(1953年)などを発表、好評を得たことから、振付家としての活動を開始。『隠れ家』(1957年)、『招待』(1960年)でリン・シーモアを起用、優れた演技力を発揮した彼女は以後20年近くに渡りマクミランのミューズとなる。マクミラン初の全幕バレエ『ロメオとジュリエット』はリン・シーモアとクリストファー・ゲイブルのために振り付けられ、65年コヴェント・ガーデンで初演された。バレエ学校時代の仲間であるジョン・クランコが芸術監督を務めるシュツットガルト・バレエでマーラーの歌曲による『大地の歌』が65年に初演されるなど、シュツットガルト・バレエに多くの作品を提供する。66年にはベルリン・ドイツ・オペラにバレエ芸術監督して招かれ、『眠れる森の美女』や『白鳥の湖』の演出、一幕ものの『アナスタシア』の振付などを手掛ける。70年にはアシュトンの後任としてロイヤルバレエのバレエ芸術監督に就任。3幕ものにリメイクされた『アナスタシア』や『マノン』などの長編バレエなど自らの作品に加え、ロビンズ、バランシン、ノイマイヤーなど他の振付家の作品をレパートリーに加える。振付に専念するため77年に芸術監督を辞任し、78年に『マイヤリング』全3幕を発表、以後『グローリア』(1980年)、『イサドラ』(1981年)などを振り付ける。『影の峡谷』(1983年)では、アレッサンドラ・フェリを見出し、84年にアメリカン・バレエ・シアターからアソシエイト・アーティスティック・ディレクターとして招かれた際フェリを同行し、『マノン』『ロメオとジュリエット』などがアメリカン・バレエ・シアターのレパートリーに加わった。ダーシー・バッセル主演の『パゴダの王子』(1989年)、バッセルとイレク・ムハメドフ主演の『冬の夢』(1991年)、ムハメドフとヴィヴィアナ・デュランテに『ユダの木』(1992年)を振り付けた。92年『マイヤリング』上演中の英国ロイヤルバレエの楽屋で死去。同じ夜、バーミンガム・ロイヤルバレエでは、マクミラン版『ロメオとジュリエット』が上演されていた。



平成22年度公演

2010.7

平成22年度

新国立劇場 こどものためのバレエ劇場

しらゆき姫

6回公演

2010.6

平成22年度

新国立劇場 中学生のためのバレエ

牧 阿佐美の椿姫

1回公演

2010.12

平成22年度

新国立劇場 地域招聘公演

新潟シティバレエ 角兵衛獅子

1回公演

しらゆき姫

Snow White

中劇場 | 6回公演

7/23 (金) ～ 7/25 (日) 各日2回公演

監 修： 牧 阿佐美
振 付： 小倉佐知子
音楽構成： 福田一雄
構成・演出： 三輪えり花
美術・衣装： 石井みつる
照 明： 杉浦弘行
音 響： 渡邊邦男
舞台監督： 伊藤 潤



新国立劇場では、次世代を担う子どもたちが優れたバレエ芸術に親子で触れられる機会を提供する目的で、平成21年度に「新国立劇場 こどものためのバレエ劇場」を実施しました。

本バレエはクラシカルバレエとして作られていますが、大人は大人の楽しみ方が、子どもには子どもの楽しみ方ができるような振付構成になっていますので、各世代の観客の方々に大変好評をいただき、初演時には追加公演が実施されました。低年齢層に配慮し、上演時間は1時間半内となっていますので、これまで劇場に足を運んだことがない子どもたちが“劇場デビュー”する格好の公演となっています。

本拠新国立劇場で公演後には新潟県民会館、見附市文化ホールアルカディア、兵庫県立芸術文化センター、サンポートホール高松、和光市民文化センターサンアゼリア、茅ヶ崎市民文化会館、厚木市文化会館にて公演を予定しています。

ものがたり

あるところにしらゆき姫というとても美しい王女がいました。彼女の継母の王妃(魔女)は、自分が世界で一番美しいと信じており、彼女の持つ魔法の鏡もそう言うってくれるので満足な日々を送っていました。美しく成長したしらゆき姫は隣の国の王子に出会い、二人は恋に落ちます。ある日王妃が魔法の鏡に「世界で一番美しい女性は何？」と聞くと、しらゆき姫だという答えが返ってきて、王妃は怒りのあまり、猟師にしらゆき姫を森に連れて行き、姫を殺すよう命令します。しかし姫を不憫に思った猟師は彼女を殺せず、代わりに森の中に置き去りに。姫は、森の中で7人のこびとたちと出会い暮らします。しかし、王妃が魔法の鏡に「世界で一番美しいのは？」と聞くと、鏡が「しらゆき姫」と答えたため姫がまだ生きていることがわかります。王妃は、姫を殺そう何度も試みますが失敗します。さて今度は毒リンゴを作り、リンゴ売りに化けて姫に食べさせると姫は倒れてしまいます。姫は死んでしまった、と悲しみに暮れたこびとたちは、姫をガラスの棺に入れ毎朝毎晩お参りをし、3年の月日が流れます。あるとき、あの王子がそこに通りかかり、棺に入った、生きていた時のまま美しいしらゆき姫をくれるようにこびとたちに頼みますが、彼らはそれを断ります。双方が棺の奪いあいをしたため、棺の中から姫が転がり落ちます。その拍子に姫は喉に詰まっていたリンゴのかげらを吐き出して息を吹き返し、二人はめでたく結ばれます。

牧 阿佐美の椿姫

Maki Asami's La Dame aux Camélias

オペラバレエ | 1回公演

振 付: 牧 阿佐美
音 楽: エクトール・ベルリオーズ
編曲・指揮: エルマノ・フローリオ
舞台装置・衣裳: ルイザ・スピナテッリ
照 明: 沢田祐二

新国立劇場では、普及公演事業として若い世代が優れた生の舞台を鑑賞する機会を設け、舞台芸術の普及、心豊かな文化的社会の構築、そして健全な青少年の育成に努めています。

2008年より開始した中学生向けのプログラムとしては3年目となる2010年は『牧阿佐美の椿姫』を上演することとなりました。

一流ダンサーで観る本物のバレエは中学生に深い感動を与えるに違いありません。

ものがたり

マルグリットは、パリ社交界の華。その美貌はどんな男も虜にしまい、金に糸目をつけない紳士たちが次々と彼女を自分のものにしようとしてきた。しかし、ある日の夜会で若く純粋な詩人アルマンと出会ったことで、彼女の人生は一変する。真の愛に身を捧げる決心の末、全てを捨てて二人だけの生活を選んだマルグリットだったが、アルマンの父の説得により心ならずも彼を裏切るのだった。

肺病が悪化して死期が近づくマルグリットの前に現れたアルマン。しかし、時はすでに遅く……。

新潟シティバレエ

角兵衛獅子

Kakubé-Jishi

中劇場 | 1回公演

12/19(日) 15:00

振付: 橘秋子

音楽: 山内正

芸術監督・ステージング: 渡辺珠実

出演: 新潟シティバレエ

指揮: 福田一雄

管弦楽: シアター・オーケストラ・トーキョー

照明: 大島範行

新潟県西蒲原郡月潟村は角兵衛獅子(越後獅子)発祥の地。江戸末期には最も盛んで、70余名の親方が各々7、8人の子供をかかえ、曲芸団として旅興行に出ていました。本来角兵衛獅子は様々な理由で親と離れ離れになった子供たちを集めて獅子舞を仕込み、大道芸人として諸国を勧進して歩く旅芸人でした。年に一度の月潟村の地蔵祭りには全員が帰省し、獅子舞を競演する慣習があったため、この盛大な行事は諸国に知れ渡っており、母子対面を願って、地蔵祭りにはるばる諸国から子供たちの母親が集まってくるのが常でした。

これをもとに、橘秋子が振り付け、山内正が作曲したのがこの『角兵衛獅子』です。

「第31回全国合同バレエの夕べ」(2007年)プログラムより抜粋

ものがたり

年に一度の地蔵祭りで角兵衛獅子の競演が始まり、姉妹も参加している。親の見つかった仲間を羨ましく思い、妹は夕暮れの村はずれまで追いかけていく。姉は妹をひきとめようとするが、ふと後を見ると去年江戸で会った虚無僧が立っている。姉は懐かしさでいっぱいになり、虚無僧も姉にみやげの簪を渡し、ともに再会を喜び合う。姉妹を探しに来た親方がこの様子を見て怒りののしる。虚無僧は立ち去り、姉妹は泣き泣きさらしを振って別れを惜しむのだった。

CONTEMPORARY
DANCE

| *Lineup* |

2010/2011シーズン
コンテンポラリーダンス ラインアップ
〈計4 演目〉

2010.10

ダンスプラネットNo.33

DANCE PLATFORM 2010

6回公演

2010.12

ダンステアトロンNo.19

ストラヴィンスキー・イブニング

平山素子

「兵士の物語」「春の祭典」

2回公演

2011.3

ダンスプラネットNo.34

井手茂太 イデビアン・クルー

5回公演

2011.5

ダンステアトロンNo.20

DANCE to the Future 2011

2回公演

DANCE PLATFORM 2010

小劇場 | 6回公演

●前売開始:2010.7/18(日)

2010.10/22(金) 7:00 23(土) 6:00 24(日) 3:00 Aプログラム
 29(金) 7:00 30(土) 6:00 31(日) 3:00 Bプログラム

●料金 A:5,250円・B:3,150円

新たなアーティストの発掘を目指す新企画がスタート

新国立劇場ではこれまでに「DANCE EXHIBITION」「舞姫と牧神達の午後」などのダンスコンサートの場で、50組以上の新進気鋭の振付家・カンパニーを登場させて来ました。この新企画でも、新国立劇場に初めて作品を発表する日本人アーティストによる、2つのプログラムを上演します。海外で活躍中のアーティストや国内で注目される振付家による作品、ソロダンス、デュエット、トリオ、グループダンス作品など多彩な表現が楽しめる公演となるでしょう。

若いアーティスト達には流行を追うのではなく、しっかりと身体と向き合い作品創りをすることが求められます。次のステップへと繋げるために「先ずこのプラットフォームに立つ」機会を与え、新たなアーティストの発掘を目指します。

主な出演予定カンパニー・振付家



大植真太郎

C/Ompany 大植真太郎・柳本雅寛・平原慎太郎

大植真太郎はハンプルク・バレエ、NDT II、クルベリ・バレエなどを経て現在ダンサー・振付家として国境を超えて活躍している。日本では柳本雅寛、平原慎太郎と共に C/Ompanyとして創作活動を行っている。



菊地尚子

2003年文化庁派遣芸術家在外研修員として渡米。ニューヨークで立ち上げた自身のカンパニー「705 Moving Co.」を始動するべく、05年10月に帰国。08年に発表した『シンフォロニカ・フィジクロニクル』では、諧謔的精神に富んだ演出により現代舞踊協会奨励賞を受賞した。



photo:塚田洋一

松崎えり

クラシックバレエを母、松崎すみ子に、モダンダンスを庄司裕、コンテンポラリー・ダンスを能美健志に師事。2002年文化庁派遣芸術家在外研修員として、パリに1年間留学し、04年より自ら演出、振付を手がける[NOON]を立ち上げ、国内外で新作を発表している。

高瀬譜希子

ニューヨーク生まれ。数々の舞踊コンクールで一位を獲得し、文化庁新進芸術家海外研修員として、ヨーロッパに渡る。2008年よりヘンリ・オグイケ・ダンス・カンパニー（英国）の中心メンバーとして活躍中。



大岩淑子

2006年までバレエ・ブルジョア・カージュでダンサーとして活躍。新国立劇場では『春の祭典』『N』『受胎告知』に出演した。現在は Company Toshiko Oiwa を主宰し、フランス、オランダ、ブラジル、日本、韓国などで振付家、ダンサーとして国際的に活動している。



原田みのる

19歳からダンスの道へ入り、様々なジャンルの踊りを国内外で学ぶ。2007年新潟りゅーとびあの特属ダンス・カンパニー Noism に所属。08年よりフリーランス活動を再開し、演劇・ミュージカルなどの舞台を中心に、映画、TV、CMなど幅広い分野で活躍中。



池田美佳

2005年北九州&アジア全国洋舞コンクールシニアをはじめ、各地の全国コンクールにて第1位を4回受賞。新国立劇場では大倉正之助演出『如風～inside of wind』、野坂公夫『曲線（カーブ）した声』、平山素子『un/sleepless』に出演。08年、前途ある舞踊家に贈られる現代舞踊協会新人賞を受賞した。



山口華子

お茶の水女子大学卒業後、2009年東京新聞主催全国舞踊コンクール創作部門で『さらされた部屋』で第1位となった。現在、本間祥公ダンスエテルノにて舞台活動を行っている。



ストラヴィンスキー・イブニング

平山素子「兵士の物語」「春の祭典」

中劇場 | 2回公演 ※兵庫県立芸術文化センターにて公演予定

●前売開始:2010.9/20(月・祝)

2010.12/4(土) 6:00 5(日) 3:00

●料金 A:5,250円・B:3,150円

第一部 兵士の物語 (ヴァイオリン、クラリネット、ピアノ用組曲)

演出・振付・美術原案: 平山素子

音楽: イーゴリ・ストラヴィンスキー

音楽監修: 笠松泰洋

照明: 小笠原 純

衣裳: 堂本教子

第二部 春の祭典 (ピアノ連弾編曲版)

初演: 2008年11月「古楽とストラヴィンスキー」公演

振付・出演: 平山素子／柳本雅寛

ピアノ演奏: 土田英介／篠田昌伸

芸術選奨新人賞受賞作品の再演に加え 新作『兵士の物語』に挑戦する珠玉のラインアップ

2008年11月新国立劇場で初演された平山素子による『春の祭典』。広いステージで繰り広げられる男女2名のダンサーの、時には息もつかせぬようなダンス。2人のピアノの名手がストラヴィンスキーによるピアノ連弾『春の祭典』を演奏し、徐々に高揚してゆくラストシーンは観客を感動の渦へと巻き込んで行きます。この作品での演出・振付、そして自身のスリリングな演技により、平山素子は第59回芸術選奨文部科学大臣新人賞を受賞しました。『春の祭典』の再演に加え、今回は新作『兵士の物語』に挑戦します。



08年11月『春の祭典』



photo: 橋本徳彦

平山素子

Hirayama Motoko

洗練された感性と開拓心を同時に合わせ持つダンサーとして高い評価を得、近年は振付家としても意欲的に活動。2006年『Revelation』をS.ザハロワ(ポリショイ劇場バレエ団)に振付。新国立劇場では『シャコンヌ』『Butterfly』が開場10周年記念公演で再演され、07年『Life Casting 一型取られる生命』では『Twin Rain』『un/sleepless』の2作品を発表し第7回朝日舞台芸術賞、キリン・ダンスサポートを受賞、09年改訂版での再演。『春の祭典』では、平成20年度芸術選奨文部科学大臣新人賞、第26回江口隆哉賞を受賞。また、シンクロナイズドスイミング日本代表に振付協力し、北京五輪での銅メダル獲得に貢献するなど、日本のダンスシーンをリードする存在である。筑波大学人間総合科学研究科(体育科学系)准教授。

井手茂太 イデビアン・クルー

小劇場 | 5回公演

●前売開始:2010.12/11(土)

2011.3/9(水) 7:00 10(木) 7:00 11(金) 7:00 12(土) 3:00 13(日) 3:00

●料金 A:5,250円・B:3,150円

演出・振付:井手茂太

出 演: イデビアン・クルー

井手茂太が待望の新国立劇場 舞踊公演に初登場

ユーモラスで、どこかほかない人間模様が、既存のダンススタイルにとらわれない自由な発想で、舞踊作品として創り上げてきた井手茂太。一時活動を休止し充電期間中であるカンパニーをリニューアルさせ、イデビアン・クルーとして待望のダンス作品を上演します。



photo:OGATA Mina

井手茂太

Ide Shigehiro

1995年にダンスカンパニー イデビアン・クルーを旗揚げ。カンパニーの作品発表をベースに、演劇作品への振付やステージング、プロモーション・ビデオ、CMの振付・出演など、幅広いジャンルで活動する。日常の中に紛れ込む、ふとした身振りや視線を丁寧に抽出しつつ、出演者の個性を最大限に活かす独自の振付手法は、国内外から高い評価を得ている。

近年では、新国立劇場演劇公演『城』（F.カフカ原作）、『異人の唄 —アンティゴネー』の振付などを手がけ、2005年には自身初のソロ公演『井手孤独【idesolo】』を発表。ダンサーらしからぬ体型で繰り出される、しなやかで弾力のある動きは観る者の目を離さず、ダンサーとしての注目度も高い。

〈受賞歴〉

1995年 ドイツ ARENA FES'95 で観客賞受賞
2004年 第11回読売演劇大賞優秀スタッフ賞受賞
2006年 第3回アサヒビール芸術賞受賞
2008 & 09年 第2回 & 3回日本ダンスフォーラム賞受賞

〈主な作品〉

『コッペリア』『不一致』『くるみ割り人形』『補欠』『政治的』『排気口』

DANCE to the Future 2011

中劇場 | 2回公演

●前売開始:2011.3/13(日)

2011.5/28(土) 6:00 29(日) 3:00

●料金 S: 6,300円・A: 5,250円・B: 4,200円・C: 3,150円

バレエ団と現代舞踊を融合させる 新国立劇場ならではの公演企画・第二弾

バレエに蓄積された歴史と技術にコンテンポラリーダンスの現代性を融合させ、バレエダンサーがその可能性を未来へと繋げて行くダンスの場として、2009/2010シーズンに立ち上げられた公演企画。

舞台と客席が近距離のため、観客がダンスをより身近に体感でき、バレエダンサーの新たな魅力を発見する機会ともなるでしょう。

普段のバレエ公演とは違った角度から、主役級のソリストを一度に何人も観ることができるのも、本公演の大きな魅力です。

BALLET

公演一覧

開場記念公演～2009/2010シーズン

★＝新制作

シーズン	公演	振付	改訂振付・演出等	音楽	公演初日
開場記念公演	眠れる森の美女★	M. プティパ	K. セルゲーエフ O. ヴィノグラードフ	P. チャイコフスキー	97.10/24
	くるみ割り人形★	M. プティパ/L. イワーノフ	V. ワイノーネン G. コームレワ	P. チャイコフスキー	97.12/18
	梵鐘の聲 ～平家物語より★	石井 潤	石井 潤	石井真木	98.2/1
1998/ 1999	白鳥の湖★	M. プティパ/L. イワーノフ	K. セルゲーエフ N. ドウジンスカヤ	P. チャイコフスキー	98.5/26
	ジゼル★	J. コラリ/J. ペロー/M. プティパ	K. セルゲーエフ N. ドウジンスカヤ	A. アダン	98.10/28
	くるみ割り人形	M. プティパ/L. イワーノフ	V. ワイノーネン	P. チャイコフスキー	98.12/9
	ドン・キホーテ★	M. プティパ/A. ゴルスキー	A. ファジェーチェフ	L. ミンクス	99.3/18
	トリプル・ビル				99.6/25
	レ・シルフィード★	M. フォーキン	M. パーク	F. ショパン	
	踊れ、喜べ、汝幸いなる魂よ★ ペトルーシュカ★	佐多達枝 M. フォーキン	 J. オウドウ	 I. ストラヴィンスキー	 W.A. モーツァルト
1999/ 2000	白鳥の湖	M. プティパ/L. イワーノフ	K. セルゲーエフ	P. チャイコフスキー	99.10/7
	シンデレラ★	F. アシュトン	W.E. サムス	S. プロコフィエフ	99.12/4
	トリプル・ビル				00.2/4
	ラ・バヤデールより“影の王国”★	M. プティパ	牧 阿佐美	L. ミンクス	
	テーマとヴァリエーション★	G. バランシン	P. ニアリー	P. チャイコフスキー	
	ペトルーシュカ	M. フォーキン	J. オウドウ	I. ストラヴィンスキー	
	ドン・キホーテ	M. プティパ/A. ゴルスキー	A. ファジェーチェフ	L. ミンクス	00.3/25
	J-バレエ～ダンス・クレアション～				00.5/19
	悲歌のシンフォニー～第3楽章★	金森 穰		H. グレツキ	
	十二夜★	石井 潤		G. マイネリオ ほか	
	舞姫★	望月則彦		A. シュニトケ ほか	
	ラ・シルフィード★	A. ブルノンヴィル	P. ニアリー／大原永子	H. ルーヴェンシュキョル	00.6/29
2000/ 2001	テーマとヴァリエーション	G. バランシン	P. ニアリー	P. チャイコフスキー	
	白鳥の湖	M. プティパ/L. イワーノフ	K. セルゲーエフ	P. チャイコフスキー	00.9/5
	ラ・バヤデール★	M. プティパ	牧 阿佐美	L. ミンクス	00.11/17
	くるみ割り人形	M. プティパ/L. イワーノフ	V. ワイノーネン	P. チャイコフスキー	00.12/22
	シンデレラ	F. アシュトン	W.E. サムス	S. プロコフィエフ	01.2/23
	眠れる森の美女	M. プティパ	K. セルゲーエフ O. ヴィノグラードフ	P. チャイコフスキー	01.4/26
	トリプル・ビル				01.6/22
	テーマとヴァリエーション リラの園★	G. バランシン A. チューダー	P. ニアリー D. マーラー	P. チャイコフスキー E. ショーソン	
	ライモンダ第3幕★	M. プティパ	牧 阿佐美	A. グラズノフ	
2001/ 2002	ロメオとジュリエット★	K. マクミラン	J. リンコン	S. プロコフィエフ	01.10/12
	シンデレラ	F. アシュトン	W.E. サムス	S. プロコフィエフ	01.12/21
	白鳥の湖	M. プティパ/L. イワーノフ	K. セルゲーエフ	P. チャイコフスキー	02.2/4
	ミックス・プログラム				02.3/16
	レ・シルフィード	M. フォーキン	M. パーク	F. ショパン	
	四つの最後の歌★	R.v. ダンツイヒ	R.V. ダンツイヒ	R. シュトラウス	
	ドゥエンデ★	N. ドゥアト	T. ファーブル/K. マッカーシー	C. ドビュッシー	
	シンフォニー・イン・C★	G. バランシン	P. ニアリー	G. ビゼー	
	リラの園	A. チューダー	D. マーラー	E. ショーソン	
	ドン・キホーテ	M. プティパ/A. ゴルスキー	A. ファジェーチェフ	L. ミンクス	02.5/17
	ジゼル	J. コラリ/J. ペロー/M. プティパ	K. セルゲーエフ	A. アダン	02.6/25

シーズン	公演	振付	改訂振付・演出等	音楽	公演初日
2002/ 2003	ローラン・プティのこうもり★	R. プティ		J. シュトラウスⅡ世 (編曲 D. ガムレイ)	02.9/22
	J-バレエ〜ダンス・クレアション〜				02.11/15
	String (s) piece ★	金森 穰		池田亮司	
	Nothing is Distinct ★	中島伸欣		管谷昌弘	
	FEELING IS EVERYWHERE ★	島崎 徹		J.S. バッハ ほか	
	くるみ割り人形	M. プティパ / L. イワーノフ	V. ワイノーネン	P. チャイコフスキー	02.12/21
	ラ・バヤデール	M. プティパ	牧阿佐美	L. ミンクス	03.2/21
	白鳥の湖	M. プティパ / L. イワーノフ	K. セルゲエフ	P. チャイコフスキー	03.5/16
	ラ・シルフィード	A. ブルノンヴィル	S. エルグランド / 大原永子	H. ルーヴェンシュキョル	03.6/27
2003/ 2004	パキータ★	M. プティパ	M. ヴァジーエフ / L. クナコーワ	L. ミンクス	
	THE CHIC				03.10/3
	シンフォニー・イン・C	G. バランシン		G. ビゼー	
	ジゼル／こうもり／ラ・バヤデール／ロメオとジュリエットよりパ・ド・ドゥ				
	ジャルディ・タンカート★	N. ドゥアト		M.D.M. ボネ	
	マノン★	K. マクミラン	M. パーカー / P. ルアンヌ	J. マスネ	03.10/29
	シンデレラ	F. アシュトン	W.E. サムス	S. プロコフィエフ	03.12/12
	ローラン・プティのこうもり	R. プティ		J. シュトラウスⅡ世 (編曲 D. ガムレイ)	03.12/21
	ロメオとジュリエット	K. マクミラン	J. リンコン	S. プロコフィエフ	04.4/16
2004/ 2005	眠れる森の美女	M. プティパ	K. セルゲエフ O. ヴィノグラードフ	P. チャイコフスキー	04.6/4
	ライモンダ★	M. プティパ	牧 阿佐美	A. グラズノフ	04.10/15
	くるみ割り人形	M. プティパ / L. イワーノフ	V. ワイノーネン	P. チャイコフスキー	04.12/17
	白鳥の湖	M. プティパ / L. イワーノフ	K. セルゲエフ	P. チャイコフスキー	05.1/7
	エメラルド・プロジェクトNo.1 カルメン by 石井 潤★	石井 潤		G. ビゼー (編曲 R. パーカー)	05.3/25
	眠れる森の美女	M. プティパ	K. セルゲエフ O. ヴィノグラードフ	P. チャイコフスキー	05.4/29
	ドン・キホーテ	M. プティパ / A. ゴルスキー	A. ファジェーチェフ	L. ミンクス	05.6/25
	カルミナ・ブラーナ	D. ピントレー		C. オルフ	05.10/29
	ライモンダ ～第1幕より夢の場	M. プティパ	牧 阿佐美	A. グラズノフ	
2005/ 2006	くるみ割り人形	M. プティパ / L. イワーノフ	V. ワイノーネン	P. チャイコフスキー	05.12/16
	白鳥の湖	M. プティパ / L. イワーノフ	K. セルゲエフ	P. チャイコフスキー	06.1/7
	ナチョ・ドゥアトの世界				06.3/23
	ドゥエンデ	N. ドゥアト	K. マッカーシー	C. ドビュッシー	
	ジャルディ・タンカート			M.D.M. ボネ	
	ボル・ヴォス・ムエロ★			15 ～ 16 世紀スペインの古楽	
	ローラン・プティのこうもり	R. プティ		J. シュトラウスⅡ世 (編曲 D. ガムレイ)	06.5/19
	ジゼル	J. コラリ / J. ペロー / M. プティパ	K. セルゲエフ	A. アダン	06.6/24
	ライモンダ	M. プティパ	牧 阿佐美	A. グラズノフ	06.10/5
2006/ 2007	白鳥の湖★	M. プティパ / L. イワーノフ	牧 阿佐美 (K. セルゲエフ版による)	P. チャイコフスキー	06.11/12
	シンデレラ	F. アシュトン	W.E. サムス	S. プロコフィエフ	06.12/15
	眠れる森の美女	M. プティパ	K. セルゲエフ O. ヴィノグラードフ	P. チャイコフスキー	07.2/1
	エメラルド・プロジェクトNo.2 オルフェオとエウリディーチェ★	D. ウォルシュ		C. W. グルック (編曲 D. ガルフォース)	07.3/21
	ローラン・プティのコッペリア★	R. プティ		L. ドリーブ	07.5/13
	ドン・キホーテ	M. プティパ / A. ゴルスキー	A. ファジェーチェフ	L. ミンクス	07.6/28

シーズン	公演	振付	改訂振付・演出等	音楽	公演初日
2007/ 2008	オペラ・バレエ ガラ公演				07.10/1
	セレナーデ	G. バランシン		P. チャイコフスキー	
	牧 阿佐美の椿姫★	牧 阿佐美		E. ベルリオーズ	07.11/4
	くるみ割り人形	M. プティパ/L. イワーノフ	V. ワイノーネン	P. チャイコフスキー	07.12/19
	ニューイヤー オペラパレスガラ				08.1/5
	アンド・ワルツ	牧 阿佐美		M. ラヴェル	
	「こもり」から「グラン・カフェ」	R. プティ		J. シュトラウスⅡ世	
	カルメン by 石井 潤★	石井 潤		G. ビゼー（編曲 R. バーカー）	08.3/27
	ラ・バヤデール	M. プティパ	牧 阿佐美	L. ミンクス	08.5/18
2008/ 2009	白鳥の湖	M. プティパ/L. イワーノフ	V. ワイノーネン	P. チャイコフスキー	08.6/24
	デヴィッド・ピントレーのアラジン★	D. ピントレー		C. デイヴィス	08.11/15
	シンデレラ	F. アシュトン	W.E. サムス	S. プロコフィエフ	08.12/20
	ライモンダ	M. プティパ	牧 阿佐美	A. グラスノフ	09.2/10
	Ballet the Chic ーバランシン/サープ/ドゥアトー				09.3/26
	セレナーデ	G. バランシン			
	ボル・ヴォス・ムエロ	N. ドゥアト			
	ブッシュ・カムズ・トゥ・ショヴ	T. サープ			
	空間の鳥	井口裕之			
	白鳥の湖	M. プティパ/L. イワーノフ	牧 阿佐美	P. チャイコフスキー	09.5/19
2009/ 2010	ローラン・プティのコツペリア	R. プティ		L. ドリーブ	09.6/26
	ドン・キホーテ	M. プティパ/A. ゴルスキー	A. アレクセイ・ファージェーチェフ	L. ミンクス	09.10/12
	くるみ割り人形★	M. プティパ/L. イワーノフ	牧 阿佐美	P. チャイコフスキー	09.12/20
	白鳥の湖	M. プティパ/L. イワーノフ	牧 阿佐美	P. チャイコフスキー	10.1/17
	ボリス・エイフマンのアンナ・カレーニナ★	B. エイフマン		P. チャイコフスキー等	10.3/21
	デヴィッド・ピントレーのカルミナ・ブラーナ	D. ピントレー		C. オルフ	10.5/1
	ガラントウリーズ★	D. ピントレー		W.A. モーツァルト	
	牧阿佐美の椿姫	牧 阿佐美		H. ベルリオーズ	10.6/29

CONTEMPORARY DANCE

公演一覧

開場記念公演～2009/2010シーズン

シーズン	公演	振付・主演・演奏等		公演初日
開場記念公演	パノラマ展Aプログラム			97.11/21
	ラブソディ	石井かほる		
	リジェネレーション	能美健志		
	リゴドン ～死の舞踏	庄司 裕		
	マスターワークス			97.12/6
	鼻の唄	折田克子		
	世界はバッハのように	西田 堯		
	パノラマ展Bプログラム			98.1/7
	春の祭典	竹内登志子		
	カウンターバランス ～現実をみるための空想～	米井澄江		
風市	藤井 公			
1998/ 1999	ダンスプラネットNo.1 コムヘリタキナ	木佐貫邦子		98.4/24
	ダンスプラネットNo.2 ありす	中村しんじ		98.9/25
	ダンステアトロンNo.1 凡人 対 美黄			98.11/28
	ゆるやかなさかみち	厚木凡人		
	礼儀正しい隠蔽	若松美黄		
	ダンステアトロンNo.2 FAUST	平林和子		99.2/26
	ダンスプラネットNo.3 エロスの部屋 ～黒い乳母車～	泉 克芳		99.4/23
1999/ 2000	ダンスプラネットNo.4 現実との3分間／非現実との3分間 ～ピアソラへのオマージュ～	能美健志		99.9/24
	ダンステアトロンNo.3 神曲	西田 堯		99.11/27
	ダンスプラネットNo.5 ダンスコンサート 舞姫たちの午後			
	Aプログラム Sequence of tenses 死と乙女 城壁の空高く、のぼる太陽・しずむ月 Hommage 墜ちたる天女	田保和里 軽部裕美 武元賀寿子 菊地純子 本間祥公	振付 二見一幸 振付 能美健志 演奏 斎藤 徹／井野信義 演奏 森田浩平 演奏 杉浦 聡	00.3/10
	Bプログラム ff-fortissimo あいだ カッサンドラダンス あなたの肩に頬寄せて 雲の上に草をうえる人 権兵衛が種をまけば…	内田 香 北井千都代 地主律子 児玉敏子 川野真子 金井美三枝	演奏 馬場高望 振付 中村しんじ 演奏 香川隆樹／持丸 明／原 光弘	00.3/12
	ダンスプラネットNo.6 キングリア	上田 遥	演奏 東儀秀樹／王 霄峰	00.6/9

シーズン	公演	振付・主演・演奏等	公演初日
2000/ 2001	ダンスプラネットNo.7 ピノッキオ	中村しんじ	00.9/22
	ダンスアトロンNo.4 Raj Packet -everything but Ravi	勅使川原三郎 演奏 SAND	00.12/16
	ダンスアトロンNo.5 Close the door, open your mouth	伊藤キム 音楽監督・演奏 伊藤康英	01.3/10
	HYPER BALLAD	山崎広太	
	ダンスプラネットNo.8 エヴァのひみつ	石井かほる	01.6/15
2001/ 2002	ダンスプラネットNo.9 Signs:Landmark	モリサ・フェンレイ ピアノ演奏 高橋アキ	01.9/28
	Metamorphosis	菊地純子	
	ダンスアトロンNo.6 森羅	野坂公夫	01.12/1
	空間の詩学	正田千鶴	
	ダンスプラネットNo.10 伊藤キム作品集 Me and I / Butterfly and Me / あなた	伊藤キム	02.2/15
	ダンスアトロンNo.7 マーサへ ～空のなか 愛がふれあうとき～	アキコ・カンダ	02.6/15
2002/ 2003	ダンスプラネットNo.11 未来の空隙は響き	構成・演出・美術 小池博史	02.9/20
	ダンスアトロンNo.8 Raj Packet II	構成・振付・美術・衣裳・照明 勅使川原三郎 演奏 SAND	02.12/14
	ダンスプラネットNo.12 DANCE EXHIBITION 2003		
	Aプログラム DOROBO 泥棒 ―再生の産声― the edge Figninto 穿たれた眼	石川ふくろう 永谷亜紀 カンパニー・サリア・ニ・セイドウ 振付 セイドウ・ボロ	03.3/14
	Bプログラム Against Newton ～ニュートンに逆らって 4×4	Dance Theatre LUDENS 構成・演出 岩淵多喜子 水と油	03.3/16
	ダンスアトロンNo.9 EXPECT 東京ダンスホール	木佐貫邦子 中村しんじ	03.6/21
	ダンスプラネットNo.13 ダンスコンサート 舞姫と牧神達の午後		
	Giselle Espresso 弱法師 ロメオとジュリエットI & II シャコンヌ MAGUMA	軽部裕美 & 島地保武 内田香 & 古賀豊 加賀谷香 & 森山開次 特別出演 津村禮次郎 イ・ユンキョン & リュ・ソクン 平山素子 & 能美健志 蘭このみ & 清水典人	03.9/12
2003/ 2004	ダンスアトロンNo.10 バレエ・ブレルジョカージュ ヘリコプター／春の祭典	アンジュラン・ブレルジョカージュ	03.11/7
	ダンスプラネットNo.14 Against Newton II 騒ぐにはもってこいの日	Dance Theatre LUDENS 構成・演出 岩淵多喜子 武元賀寿子 演奏 こまっちゃクレズマ／太田恵資	04.2/13
	ダンスアトロンNo.11 Close the door, open your mouth 花の歴史	伊藤キム 音楽監督・演奏 伊藤康英 伊藤キム	04.5/15

シーズン	公演	振付・主演・演奏等	公演初日
2004/ 2005	ダンスブラネットNo.15 DANCE EXHIBITION 2004		
	Aプログラム Divining 月に歌うクジラ 冷めないうちに召し上げ	リー・ウォーレン & ダンサーズ 川野眞子 内田 香Roussewaltz ピアノ演奏 サイモン・テデスキ 総合演出 中村しんじ	04.9/15
	Bプログラム LOTUS —花の咲く時季 OKINA Swerve	浅野つかさ 森山開次 リー・ウォーレン&ダンサーズ 特別出演 津村禮次郎 打楽器演奏 バプロ・パーカッソー	04.9/17
	ダンステアトロンNo.12 KAZAHANA 風花	勅使川原三郎	05.2/4
	ダンスブラネットNo.16 移動の法則	水と油	05.2/18
	ダンスブラネットNo.17 田中 泯 独舞・赤光	田中 泯 演奏 大倉正之助／一噌幸弘	05.6/3
	ダンスブラネットNo.18 ダンスコンサート 舞姫と牧神達の午後		
2005/ 2006	ダリ的リアリズムの薔薇 あやかし Where is my moon? 光芒 ～長き尾を引き流れ星は～ Butterfly noon afternoon	矢作聡子 & 藤田恭子 & 関根えりか & 山中ひさの 花柳せいら & 伊藤拓次 バク・ユースン & キム・ソンヨン 蘭このみ & 清水典人 平山素子 & 中川 賢 マイケル・シューマツハ & アレッシオ・シルベストリン	05.9/16
	ダンスブラネットNo.19 コラボレートする身体 いぶき～奇蹟の大地 法悦	森山開次 & 宮崎秀人 能美健志 & 高田みどり 打楽器演奏 高田みどり	05.11/25
	ダンステアトロンNo.13 バレエ・プレルジョカージュ		
	Aプログラム N	アンジュラン・プレルジョカージュ	06.1/31
	Bプログラム Les 4 saisons... (四季)	アンジュラン・プレルジョカージュ	06.2/4
	ダンスブラネットNo.20 きらめく背骨	前田清実 音楽・演奏 金子飛鳥	06.6/16
	ダンスブラネットNo.21 DANCE EXHIBITION 2006		
2006/ 2007	Aプログラム 【c-e】 消失にむかう地点の青 Crush さーかす	佐藤美紀 共同演出 鈴木千穂／平多利江 キム・バンソン 川野眞子 演出 中村しんじ	06.9/15
	Bプログラム QWERTY 人形 Chopiniana ケース Butterfly no-side	石山雄三 湊斐美子 中野真紀子 新上裕也 平山素子&中川 賢 グー・リャンリャン&高頂	06.9/18
	ダンステアトロンNo.14 ガラスノ牙	勅使川原三郎	06.12/15
	ダンステアトロンNo.15 如風～inside of wind	野坂公夫／武元賀寿子／内田 香 演出・音楽・演奏 大倉正之助 音楽・演奏 ロバート・ミラベル	07.2/10
	ダンスブラネットNo.22 Life Casting —型取られる生命—	平山素子	07.6/1
	ダンスブラネットNo.23 消息 Substance	勅使川原三郎	07.9/29
	ダンスブラネットNo.24 勅使川原三郎ソロ ミロク	勅使川原三郎	07.12/8
2007/ 2008	ダンス名作展 —10年を振り返って未来への展望—		08.1/18
	Against Newton シャコンヌ Espresso さーかす	岩淵多喜子 平山素子&能美健志 内田 香&古賀 豊 川野眞子 ヴァイオリン演奏 末永千湖 演出 中村しんじ	
	ダンスブラネットNo.26 未来へ繋ぐトリプル・ビル		08.2/15
	受胎告知 Butterfly 曲線(カーブ)した声	アンジュラン・プレルジョカージュ 平山素子&中川 賢 野坂公夫／坂本信子	
	ダンスブラネットNo.27 空気のダンス —デッサンから飛び立った少女—	勅使川原三郎	08.4/4

シーズン	公演	振付・主演・演奏等	公演初日
2008/ 2009	ダンスプラネットNo.21 DANCE EXHIBITION 2008 —Dance meets Music—		
	Aプログラム Accumulated Layout (蓄積された配置) “形が” “人が” 語り始めると カッコウ	梅田宏明 二見一幸 / ダンスカンパニーカレイドスコープ Co. 山田うん ピアノ演奏 クリヤ・マコト	08.9/6
	Bプログラム REM —The Black Cat パレードの馬 Flush (ほとばしる) ～生き急ぐ時間たち～	川口ゆい 加賀谷香 上島雪夫 / UESHIMA theater ヴァイオリン演奏 太田恵資	08.9/13
	ダンステアトロンNo.16 古楽とストラヴィンスキー 木佐貫邦子×平山素子		08.11/15
	キャラバン 春の祭典	木佐貫邦子 平山素子 / 柳本雅寛 音楽 スカンク ピアノ演奏 土田英介 / 篠田昌伸	
	ダンスプラネットNo.29 森山開次作品集		09.2/9
	OKINA 弱法師 花想観 狂ひそうろうふ (くるいそうろう)	森山開次 / 津村禮次郎 森山開次 / 加賀谷 香 / 津村禮次郎 森山開次 音楽 種子田郷 音楽 笠松泰洋 フルート演奏 木之脇道元 音楽・パーカッション YAS-KAZ	
	金森 穰 Noism09	金森 穰	09.6/17
2009/ 2010	ダンステアトロンNo.17 勅使川原三郎 鏡と音楽	振付・演出・美術・照明・衣裳 勅使川原三郎	09.9/25
	ダンスプラネットNo.31 平山素子 Life Casting —型取られる生命—	構成・振付 平山素子 音楽 落合敏行	09.11/5
	ダンスプラネットNo.32 近藤良平 トリプルビル	演出・振付 近藤良平	10.2/5
	ダンステアトロンNo.18 DANCE to the Future		10.5/29
	Wolfgang for Webb THE LAST ERA OF CINDERELLA Snow Lotus —雪蓮華	振付 ドミニク・ウォルシュ 能美健志 井口裕之	